

法史学ゼミナール

専任講師 岡崎まゆみ

〈ゼミナールの目的・到達目標〉

法史学は「過去のことを探究する地味な学問」と思われがちですが、実際には大きな歴史の流れの中に現代法を位置づけることで「自明のものとして理解されている現代的な法概念は果たして妥当か？」を問う、非常に解放的で自由な学問分野です。このゼミでは、法史学の学修・プレゼンテーション訓練を通じて、①個人の問題意識について、歴史的な視野を《武器》としながら、②得た知識を自分の言葉で説明し、社会に有益な情報を発信することができるようになることを目指します。

〈ゼミの内容、進め方〉

- 2年次：刑法や民法、手続法等あらゆる立法・解釈運用はもちろん、それに携わった人々の法思想や法意識、また制定法以外の地域慣習など、これらは全て法史学の研究対象となります。まずは「あなたの関心」を一緒に探しましょう。
 - 3年次：関心の近いゼミ生同士で共同研究・発表をしながら2年次の議論を深めます。
 - 4年次：2・3年次の成果を踏まえ、個人で卒業論文を執筆・口頭発表します。
- ※2・3年次は年度初めに「今年度の目標」を立てた上で、それに対応する「期末レポート」の提出（2月中に締切、3000字程度）を必須とします。
- ※3年次の共同研究、4年次の卒業論文で高く評価できるものについては、各自の学業実績となるよう何らかの形で外部に公表したいと考えています。

〈ゼミの年間スケジュール〉

- 4～5月：「期末レポート」に向けて目標設定・発表、懇親コンパ
- 4月以降：各月1回、ゼミでお散歩会（都内にある法史学関連の史跡・資料館を巡ります。）
- 9月：ゼミ合宿…「期末レポート」に向けた進捗報告会（+α）
- 12月：忘年会兼新ゼミ生歓迎会
- 2月：「期末レポート」提出
- ※このほか学部行事（ゼミ大会）等、随時みなさんの主体的・積極的な活動を応援します。
- ※寒くなったら各月のお散歩会を終了し、教室で原史資料を読んでも良いかもしれません。

〈成績評価〉

毎回の出席を原則とします。ゼミでの報告内容（40%）、受講姿勢（20%）、期末レポート（40%）により評価を行います。

〈求めるゼミ生像〉

例えば、あなたがある判例を学んだ時に「机で読むだけでなく、実際に《現場》に行って自分の目で確かめてみたい！」と思える人は、きっと法史学に向いています。行動力がある人、プレゼンが苦でない人、（そうなりたいと思う人も含めて）お待ちしております。

〈選抜方法〉

- 書類審査により選抜を行います。ゼミ希望者は【自己PR文】を提出してください。要領は下記の通り。
- ・ A4サイズ1枚程度、パソコン（文字サイズは10.5pt）で作成すること。
 - ・ 写真や図画の挿入、カラー等、レイアウトはご自由にどうぞ。

〈募集人数〉

10名程度

〈教員からのお知らせ〉

質問、相談等はメールでご連絡ください。houseishi.ris2017@gmail.comまでご遠慮なく。

以上